

cinio

F688BT-B

クイックスタートガイド



2011 年度 1.1 版

株式会社アイエムプロジェクト

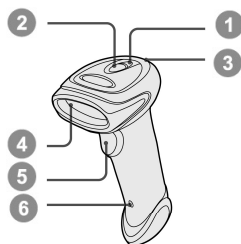
はじめに

FuzzyScan について

この度は FuzzyScan イメージャーF688BT をお選び頂きまして誠にありがとうございます。FuzzyScanF688BT は広範囲のアプリケーションにおいて作業性・生産性の効率向上に貢献します。このクイックスタートガイドはご購入後直ぐにお使い頂けるように各種の設定を説明しております。

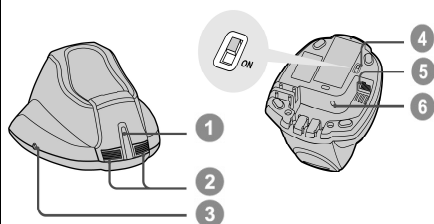
各部名称

F688BT



- 1 : リンクインジケータ
- 2 : ステータスインジケータ
- 3 : ビーパ
- 4 : スキャンウィンドウ
- 5 : トリガー
- 6 : リセットボタン

HB2110 スマートクレードル (Base) 通信充電クレードル

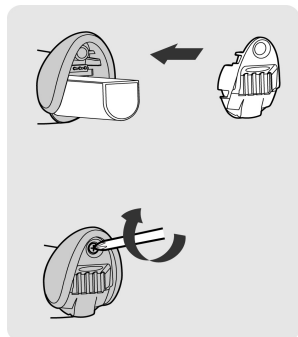


- 1 : センターインジケータ
- 2 : サイドインジケータ
- 3 : ページング/リセットボタン
- 4 : USB バスパワースイッチ
- 5 : ホストインターフェースポート
- 6 : DC パワージャック

免責事項

- ・ PC Worth (以下 PCW) 及び弊社は、本書に記載された使用およびその他の情報を事前に断りなく変更することがあります
- ・ 本書の技術的仕様や編集上の誤り等で結果発生した損害については、PCW 及び弊社は一切の責任を負いません
- ・ 本書には著作権で保護された情報が含まれ、著作権法の対象になります

バッテリーの取り扱いについて



バッテリー充電時間：

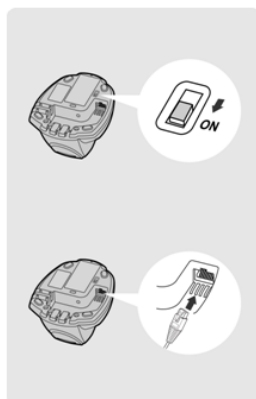
ACアダプター充電：推奨4～5時間

USBポート充電：推奨7～8時間

- ：バッテリーをスキャナーに装着してください
- ：奥まで差し込みグリップエンドキャップを装着してください
- ：プラスのドライバーを使ってネジを締めキャップを固定します

- * 端子部分に金属を接触させたり液体物と接触しますとショート等の恐れがあり**危険**ですのでご注意ください
- * 初期状態ではバッテリーに十分な充電がされておられませんのでお使い頂く前に十分な充電を行ってください(ACアダプター使用時：推奨4時間以上)
- * 長期にわたってご使用頂きますと経年劣化によりバッテリーの性能が低下しますのでバッテリーは定期的な交換を行ってください

電源供給を USB バスパワーで利用する場合



この機能は、ACアダプタを利用せずにバッテリー給電と通信を行うことができます。

この機能を利用する場合は、USBバスパワースイッチをONにしてください。

導入時はOFFにセットされています。

無線モード

FuzzyScan F688BT-B はホストデバイスと接続する為に複数の接続モードが用意されています。

PAIR モード (1 対 1 通信)

PAIR モードはスマートクレードルと 1 対 1 で無線接続を行います。

ホストには USB(HID)、USB(COM)、PS/2 キーボードウェッジ、RS232 シリアルインターフェースで接続することが可能です。

PICO モード (1 対 複数スキャナーでの通信)

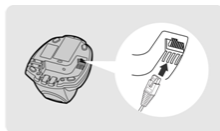
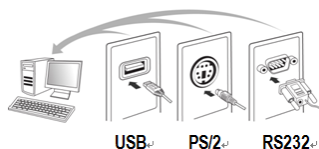
PICO モードは、1 台のスマートクレードルに対し最大 7 台のスキャナを接続することが出来ます。複数のスキャナとの接続が必要な場合に有効な接続機能です。もし PICO モードで接続確立後に全ての無線接続を非接続にしたい場合はスマートクレードルのリセットボタンを 3 秒間押してください。スキャナ単体の無線接続を非接続にしたい場合はスキャナで“ アンインストール ”バーコードを読ませてください。



* 下記のモードに関しましてはユーザーズガイドをご参照下さい。

- ・ HID モード (Bluetooth HID)
- ・ SPP モード(マスター/スレーブ)

PAIR モード (1 対 1 通信)



- : ホスト機器の電源を入れてください。
- : スキャナとクレードルが赤・緑の交互の点滅になっていることを確認してください。(アンインストール：初期化状態)
- : スキャナで“PAIR Mode”バーコードを読み取ってください。
スキャナのステータスインジケータが赤に変わります。



アンインストール



PAIR Mode

- : スキャナをスマートクレードルにセットしてください。
1 回短いピープ音が鳴り無線接続を開始します。
スキャナは連続したクリック音と青の連続点滅で無線接続を開始します。
無線接続が安全に完了すると 4 回の上昇音でお知らせします。

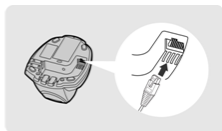
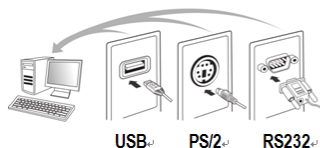
無線接続が正常に行われた時の LED 表示

スキャナ	: リンクインジケータが 2.5 秒に一回の青点滅
クレードル	: 青点灯

無線接続の失敗あるいは 20 秒以上スマートクレードルにセットされなかった場合、2 回のピープ音が鳴りペアリングモードを解除します。

- : ホスト接続側のインターフェースケーブルのコネクタ形状を確認して、該当するホストインターフェースのバーコードをスキャンしてください。
- * : インターフェースを USB(COM)にてご使用の場合は PC に USB (COM) ドライバーのインストールが必要です。

PICO モード（最大 1 対 7 通信）



- ：ホスト機器の電源を入れてください。
- ：スキャナとクレードルが赤・緑の交互の点滅になっていることを確認してください。（アンインストール：初期化状態）
- ：スキャナで“ PICO Mode ” バーコードを読み取ってください。
スキャナのステータスインジケータが赤点灯に変わります。



アンインストール



PICO Mode

- ：スキャナをスマートクレードルにセットしてください。
1 回短いピープ音が鳴り無線接続を開始します。
スキャナは連続したクリック音と青の連続点滅で無線接続を開始します。
無線接続が安全に完了すると 4 回の上昇音でお知らせします。







無線接続が正常に行われた時の LED 表示

スキャナ	：リンクインジケータが 2.5 秒に一回の青点滅
クレードル	：青点灯

無線接続の失敗あるいは 20 秒以上スマートクレードルにセットされなかった場合、2 回のピープ音が鳴りペアリングモードを解除します。

- ： ~ と同じ接続手順で、別のスキャナをスマートクレードルに無線接続出来ます。最後に接続するホストインターフェースのバーコードをスキャナで読み取り、セットアップを完了してください。
- * “ システムインフォメーションコマンド ” で各スキャナ ID の確認がすることが出来ます。

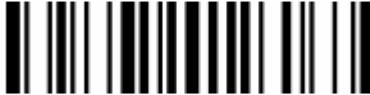

ホストインターフェース

PS/2 (DOS/V) KBW Standard Mode	PS/2 (DOS/V) KBW Turbo Mode
	
RS232 Serial	USB HID Turbo Mode
	
◆USB HID Standard Mode	USB Com Port Emulation
	

日本語キーボードの設定（工場出荷時は USA・導入時は JPN）



サフィックスの設定

RETURN 初期値	なし
	
TAB	
	

トリガーモード



Trigger Mode

TriggerMode はトリガーを握ると発光します。 バーコードをデコードするとスキャナーは待機状態になります。
Presentation Scanning Mode

周囲の環境を利用してバーコードを自動検知するモードです。デコード後一定時間が経過すると自動消灯しは周囲に変化があると自動発光します。 注：周囲照明の環境が十分でない場合、適切に動作しない場合がございます。

アウトレンジスキヤニング



スマートクレードルとの通信が未接続になった際にバーコードをスキャンするか設定できます。“ スキャン可能 ” で設定した場合、スキャンしたデータは一時的にメモリに蓄積して無線通信可能エリアに入ると自動的にデータ送信を再開します。(初期値：無線未接続状態ではスキャン不可)

Enable Out-of-range Scanning (無線未接続状態でもスキャン可能)	Disable Out-of-range Scanning (無線未接続状態ではスキャン不可)
	

データをリアルタイムに送信するモードの時の設定です。



プレゼンテーションスキヤニング

プレゼンテーションスキヤニングはユーザーがハンズフリーモードで使用する際に有効です。「Presentation Scanning Auto-sense」を有効にするとスマートクレードルまたはスマートスタンドにセットすると自動的にプレゼンテーションモードに切り替わります。(初期値：無効)

Enable Presentation Scanning Auto-sense(自動発光：有効)	Disable Presentation Scanning Auto-sense(自動発光：無効)
	



バッチスキャンニングモード

バッチスキャンニングモードはデータをスキヤナのメモリに蓄積して一括で送信する機能です。蓄積することが出来るデータ量は EAN-13 シンボルで最大 20,000 件のデータを蓄積することが出来ます。「Enter Batch Scanning」をスキャンして下さい。

Enter Batch Scanning (バッチスキャンニングモード：開始)	Exit Batch Scanning (バッチスキャンニングモード：終了)
	

データ転送方法

バッチスキャンニングモードの蓄積したデータの転送方法を選択できます。

Transmit Stored Data by Scanning Barcode Command ("Transmit Stored Data" バーコードでデータ転送) 初期値

Transmit Stored Data by Placing Scanner onto Cradle (スキヤナをクレードルにセットしてデータ転送)


“ Transmit Stored Data ” バーコードは次のページにあります。

データ転送バーコード

バッチスキャンモードのデータ転送用バーコードです。
下記のバーコードをスキャンすると蓄積データを送信します。

Transmit Stored Data by Scanning Barcode Command 設定が必須です。

Transmit Stored Data (蓄積データの転送)



データ編集バーコード

バッチスキャンモードのデータ編集用バーコードです。

Clear All Stored Data
(蓄積したデータを全て削除)



Delete Last Scanned Data
(最後に読み取ったデータの削除)



Delete Last Scanned Data はデータ収集時のみ有効な機能です。

システムコマンド

出荷時設定に戻す (Factory Default)



バーコードを読み取ると設定すべてが初期状態に戻ります。
ペアリングも解除されますのでご注意ください。

System Information List (システム内容を表示します)



スキャナのバージョンやID番号を表示することが出来ます

サンプルバーコード

UPC-A



UPC-E



EAN-13



EAN-8



Code39



Codabar



Interleaved 2 of 5



Code93



Matrix 2 of 5



Code128



RSS-14



RSS Limited



RSS Expanded



RSS Expanded Stacked

